

平成30年度「みえの現場 “やっぱし” すこいやんかトーク」(伊賀市)の概要

平成30年11月26日(月)「古民家の宿 ふとみ」にて、「みえの現場 “やっぱし” すこいやんかトーク」を開催しました。

当日は、「あおやまキャラバン先生」の皆さんから、田植えや稲刈り体験などの活動を通じて地域の子どもたちを見守る取組について、お話を伺いました。



【参加者からの発言】

自己紹介、団体の活動概要の紹介の後、知事とフリートークを行いました。

Q 活動を通じて嬉しかったことや楽しかったこと、感動したことを聞かせてください。

○発足当時に青山公民館の皆さんが、上手くメンバーを盛り上げてくれたおかげで、今まで続けてこられました。今では、地域外から移住された方が青山のことを真剣に考えてくれて、地域の皆さんも良い雰囲気です。協力してくれていることがありがたく感じています。

○メンバーは、それぞれ得意なことがあり、お互いに学び合う雰囲気があります。特定のメンバーに過度に役割が集中しない、身の丈にあったチームなので続けてこられたと思っています。

○子どもの頃、竹で遊具を上手く作れず悔しかった思い出がありましたが、この活動を通じて子どもたちに喜んでもらえる程にまで上達できました。また、竹を切ることは、里山管理の一助となる面でも、やりがいを感じています。

- 2年前に「ふとみ」に宿泊し、稲刈り体験に飛び入り参加して、地域や皆さんの魅力にひかれたことで県外からの移住を決めました。年間を通じて色々な行事に参加し、今では地域の皆さんに受け入れてもらっていることが嬉しいです。
- 保育所を訪問して昔遊びを教える活動で、子どもたちと接する機会が増えましたし、子どもたちが懐いてくれるととても嬉しくなります。今後も、子どもたちに昔遊びを伝えていきたいと思っています。
- 川遊びの活動で、我々が教えたことから、子どもたちが自分たちで更に新しい遊び方を見つけ、新たな楽しみを発見する姿を見ると驚かされますし、嬉しくもなります。
- 生まれも育ちも青山で2年程前に地域に戻ってきました。同級生の半分程は地域外に出ていますが、友人が自分の活動をどこかで知って応援してくれたときは嬉しくなります。
- 子どもたちを地域に引き留めるということではなく、地域を思い出して将来に帰ってきてくれれば良いと考えています。そのことを気付かせてくれた活動に自分が参加できることを、大変ありがたく思います。
- 「各イベントにメンバー全員が参加しなさい」というチームではありません。各メンバーが身の丈にあった範囲で活動に参加できるところが、良いところだと思っています。
- 孫も成長して一緒に過ごす機会は減りましたが、活動を通じて子どもたちと接する機会が増え、子どもたちが一生懸命に取り組む姿を見られることが嬉しいです。活動で知り合った子が街で声をかけてくれたとき、参加して良かったと感じます。
- 地域の出身ではありませんが、手先が器用なこともあり色々な活動に声をかけてもらっています。老人会の皆さん、同じように移住してきた仲間など、青山各地の皆さんと「つながり」がつくれたことを、とてもありがたく思っています。
- 個性豊かなメンバーに囲まれて、リーダーではありますが仲間の一人という思いで活動を楽しんでいます。子どもたちに心から楽しんでいる大人たちの姿を見せることも取組の意義だと考えていますし、その気持ちや想いを、子どもたちに感じとって欲しいと思っています。
- 今後は、年数を重ねることで活動がワンパターン化しないように心掛けることや、活動を更に自立化していくことが大切だと考えています。「こんなことができるよ」という地域のお年寄りへの声掛けをしっかり行い、活動に参加していただいて、楽しんでいるうちに気が付いたらメンバーとして活躍いただけるようになれば良いと思っています。まず自分たちが「楽しむ」ことを、これからも大切にしていきます。

【知事の発言】

- メンバーの皆さんが活動を心から楽しんでいる様子がとても印象的でした。地域

での活動を維持していくためには、メンバーがお互いに学び合う姿勢が大切だということや、一部のメンバーに過度に役割が集中しない組織づくりが重要であるということに改めて気付かされ、県の取組にも生かせるヒントをいただきました。○今後も、皆さんが、県内で同じように活動される皆さんをリードするような取組を続けていただけることを期待しています。是非、これからも頑張ってください。



「あおやまキャラバン先生」の皆さんは、伊賀市青山地域で、「青山を誇れる子どもたちを育てよう！」という思いのもと、田植えや稲刈り、竹を使った遊びなどの体験を通じて、地域の子どもたちに青山の魅力を楽しく伝える活動に取り組んでいます。